

幼児教育について

1 幼児をとりまく環境の現状と課題

乳幼児期は、子どもの成長にとって人格形成の基礎を培うための大変重要な時期ですが、近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることから、保護者が子育てに関して孤立感や不安を感じるなど、様々な課題が生じています。

それらを踏まえ、子どもの成長とともに保護者を支えていくことが、幼稚園等の就学前教育に求められている大きな役割の一つと考えています。

また、乳幼児期に身につける力を基盤として、それらが小学校以降の教育において、さらに広がりや深まりにつながるよう、小学校教育との接続や、保幼小中の連携がますます重要となってきています。

2 国の動向

平成30年4月から施行となる幼稚園教育要領においては、子どもが主体的に遊ぶ中で育まれていく学びの大切さに焦点を置くとともに、小学校教育との連携をはじめ、子育て支援の充実や、保育所・認定こども園等との連携について、大きく位置付けられています。

<幼稚園教育において育みたい資質・能力>

知識及び技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

<幼児期の終わりまでに育ってほしい姿>

「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」

「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」

「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」

「豊かな感性と表現」

3 本市での取組例

(1) 幼小連携

- ア 園児・児童の交流、職員による保育・授業の相互参観、話し合い等
- イ 連携に係る年間計画と実績の作成
- ウ 合同研修会の開催

- エ 小学校ALTとの連携による“幼児わくわくドキドキ英語体験”
 - ・学期に1回程度、各幼稚園にて英語を使った遊びを実施
- オ 中学校区における保幼小中連携
 - ・津市全域で会議、研修等を実施
- カ 幼稚園における5歳児カリキュラムの活用
 - ・国語・算数につながる学びを中心としたカリキュラム

(2) 子育て支援

- ア 家庭教育支援講座の開催
 - ・各幼稚園にて年間2回程度、地域の未就園児や在園児の保護者を対象とした子育てに関する講演会等を開催
- イ 子育て支援の会の開催
 - ・各幼稚園、子育て広場にて、月1～2回程度、未就園児親子が交流する場、子育て相談、子育て情報の提供等を実施
- ウ 保護者の保育参加等の取組

(3) 職員の資質向上及び教育内容の充実

- ア 就学前教育カリキュラムの作成
 - ・平成29年度末を目途に試案を作成予定
- イ 幼保相互派遣研修の実施
 - ・保育所から幼稚園、また幼稚園から保育所への体験研修を実施
- ウ ゲストティーチャーの活用
 - ・各幼稚園にて年間4回実施

4 めざす幼児教育について

- (1) 何かを教え込むことだけでなく、経験・体験から得られる学びを大切にすることのできる教育・保育課程
- (2) 保育所、幼稚園、認定こども園等が連携しながらともに質の高い幼児教育を行っていく体制づくり
- (3) 園、保護者、地域が連携し、子どもの「学びに向かう力」や、子育て家庭を支えていくことのできる環境づくり
- (4) 小学校教育との接続を踏まえ、小学校教育を見通した日々の教育・保育の基盤づくり